

2015年12月10日

2015年度 兵庫県クラブユースサッカー連盟 技術講習会
【報告書】

主催：兵庫県クラブユースサッカー連盟

後援：関西クラブユースサッカー連盟

場所：勤労会館 308 号室

日程：2015年12月5日（土）

参加者：96名

参加者分布：兵庫県内クラブ 49名

兵庫県外クラブ 9名

兵庫県内2種 17名

兵庫県内3種 12名

その他 9名



講師：森山 佳郎（U-15 日本代表監督）

【プロフィール】

■ 生年月日：1967年11月9日

■ 出身地：熊本県熊本市

■ 選手歴

1992-92 マツダ SC

1992-95 サンフレッチェ広島 ※ 1994年ステージ優勝

1996-97 横浜フリューゲルス

1998 ジュビロ磐田

1999 ベルマーレ平塚 ※ J1 通算 166 試合出場 5 得点

■ 代表歴

1994 7 試合出場

■ 指導歴

2000-02 広島ユース コーチ

2002-12 広島ユース 監督

※ 高円宮杯 (04.10.11.12) 日本クラブユース選手権 (03.04) Jユースカップ (03.06) 優勝

2013- ナショナルトレセンコーチ

U-15 日本代表コーチ

2015- U-15 日本代表監督

内容：[進行] 倉 直樹（兵庫県クラブユースサッカー連盟理事長）

18：30～20：00 森山氏 講義

20：00～20：20 質疑応答

20：20～20：30 兵庫県クラブユースサッカー連盟 会長 新開氏 挨拶

【講義】テーマ「世界で戦うために U-15 年代で獲得しておくべきこと」

<2015 年度 U-15 日本代表について>

・国際試合の結果報告

多様なグラウンド状況に対応できない。人工芝グラウンドに慣れすぎている。土のグラウンドや天然芝でのトレーニングや経験が必要である

・チームコンセプト

■ 自分のストロングチームメイトのストロングを活かして躍動感あるアクションサッカーの展開

■ **判断を共有する**…観て判断する（形ではない） ※判断材料を増やす

■ Fighting Spirit

・AFC U-16 アジア選手権予選

チームテーマ 攻撃…1点でも多く奪う、積極的にゴールへ仕掛ける

守備…前線からの積極的なプレス、パスを3本繋がせない、シュート0本

・バル・ド・マルヌ U-16 国際親善トーナメント 2015（目標⇒グループ2位以内）

チームテーマ 「日本人の良さを出す」

→ 機動力・持久力・組織力（ベースは闘う姿勢・球際の戦い・勝利への執念

<上記の大会を通して U-15 年代の課題・獲得しておくべきこととは>

■ テクニック・個人戦術

・プレッシャーの中でのプレーの質…プレッシャーのない、少ないポゼッション練習は△

・ポジショニングの質（有効な視野の確保）

・個人戦術（的確な状況判断とかけひき）…判断材料を増やす、状況（場所・時間帯 etc）の把握

■ サッカーの本質の追及…ゴールを奪う/ゴールを守る（ゴールを使ったトレーニングを増やす）

■ 人間力の追及

・常に謙虚で向上心を持ち続けて努力した者だけが成長し続ける。

→ 人間的なベースのない選手は伸びない（感受性・謙虚さ・自立 etc）⇒人間力



<森山氏が考える育成年代の課題とは>

■ ゴールへ向かう意識

シュートを打つ、ペナルティーエリア付近（ラストサード）の運動量を増やす
 （2014年W杯では日本代表が最下位）

※ 選手たちのチャレンジを認める（但し選択肢も提示する）

■ ボールを奪う力・迫力が足りない

個人でボールを奪う力…ボールにアタックする、球際の激しさ、ゴール前で体を張る
インターセプト（インサイドポジションからの予測）

■ 闘う姿勢・勝利への執念

闘わない選手は〇〇JAPANに必要な。全てにおいて相手を圧倒する（**闘争心**）。



<森山氏が考える育成年代の指導者の役割とは>

① 選手の意識を変える、取り組む姿勢を変える

→ 指導者も選手と**本気**で向き合うことが必要である（選手は見抜いている）
「意志が働けばトレーニング効果は3倍になる」「気持ちには引力がある」

② スペシャルティ（武器）を持たせる

→ 何が武器か、武器になりそうかを見極めて適切なアドバイスをする

③ 日常を変える

→ 日常のトレーニングを変えていく。

「本気で激しくボールを奪い合う」「勝利を迫及する」中で※テクニック・個人戦術を獲得する。

※動きの中でのプレーの質・スライディングの反復回数を増やす etc

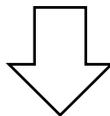
→ サッカーの本質を迫及する

ゴールへ向かう・ゴールを死守する・ボールを奪う

球際の戦い（予測・一步目の反応・ボディコンタクト）

勝利への執念

最後まであきらめない・限界まで走る



「本気で日常を変えろ」

選手の飛躍は指導者の情熱と努力に委ねられている

“我々から日本サッカーの日常を変えていこう”



報告者：小川 晃平（神戸 FC）